

庚申山(お山巡りコース)山行報告

【山行日】2014年 5月 6(日) 晴れ
【集 合】栃木市運動公園P AM 5:00
【費 用】マイカー1台 : 1,300円
【メンバー】 CL:鈴木、大西、島田、関、藤原、渡辺

【コースタイム】栃木市運動公園 P5:00＝
銀山平 P6:20/6:40～一の鳥居 7:45～庚申山
荘 9:10/9:20～庚申山 10:50/11:00～大胎内
10:50～昼食 12:20/12:50～猿田彦神社跡
14:00～一の鳥居 15:15～銀山 P16:05/16:15
＝栃木市運動公園 P17:45



大型連休最後の日に、久しぶりに庚申山を計画したが意外と参加者が少なかった。庚申山は信仰の山として、男体山と同じく勝道上人により開山され、当時の庚申信仰隆盛を偲ばせる石碑や丁石が数多く残されている。又、天然記念物コウシンソウの自生地としても有名であり、6



月の開花時期には多くの登山者でにぎわう山でもある。東北道から日光宇都宮道路を進み、国道122号線から県道293号線に入り、銀山平キャンプ場でトイレを済ませる。銀山平の登山者用駐車場に着くと、すでに2台の車が止められていた。支度をしてストレッチを済ませたら出発する。

駐車場から左に林道を進み、ゲートを過ぎると庚申川沿いに林道を4Kmほど歩くと赤い鳥居が立つ一の鳥居に着く。鳥居の先で休憩し、天

気が良く暑いので衣服調整し水分補給を行う。ここからは水ノ面沢沿いに緩やかに登る道で、新緑の自然林の中を気持ちよく歩いて行く。のんびり新緑を楽しみながら登ると、やがて鏡岩の休憩所に着く。ベンチとテーブルがあり、ニホンジカがエサを貰えると思い近づいてくる。何ももらえないと分かった、そのまま遠ざかって行く。

ここからは少し急な登りになり、夫婦蛙岩・仁王門などの岩を通り越して行くと青銅の剣や勝道上人の碑がある猿田彦神社跡に出る。ここはお山巡りコースの分岐となり、下りはここに降りてくる。直進して庚申山荘に向かい、ほんのひと登りで庚申山荘に着く。山荘前にはベンチとテーブルがあり、バイオの綺麗なトイレもある。山荘のベランダには布団が干され、めったに見られないカ



ラフな山荘を写真に収める。休憩を取り交代でトイレを済ませ、冷たい水羊羹で喉を潤す。

庚申山へはここからが本番で、右の岩壁の基部を登り、ハシゴや鎖場が連続し梵天岩やトウロウ



岩などの奇岩の間を登って行く。大胎内でお山巡りコースと合流し、ここは直進してさらに急登が続く。独特のハシゴを登ると、やがてコメツガの針葉樹林帯となり緩やかな登りになる。クマザサの平坦な道を進むようになり、左にほんの少し登ると庚申山頂に着く。山頂はコメツガの樹林に囲まれ展望は利かない。山頂で記念写真を撮り、すぐ先の見晴まで行き休憩を取る。見晴からは皇海山の雄姿が目の前に聳え、鋸山や白根山・男体山等の日光連山が一望できる。眺望を楽しみながらメロンを

食べ、記念写真を撮ったら下山する。下山は往路を戻り、大胎内の分岐からお山巡りコースを進む。ここからは経験者コースとなり、ハシゴや鎖場が連続し足元が不安定な登山道を慎重に進む。岩壁の基部をへ攀るようになり、急なハシゴが連続しクサリ場や吊り橋を渡るスリル満点のコースで通過に時間がかかる。途中、本社の見晴と呼ばれる場所でランチタイムとし、冷たい冷麦とダシ巻き卵、筍の煮つけ等を美味しくいただく。

今日は気温が高く汗をかいたので、冷たい冷麦が美味しく好評だった。ここから先も屏風岩など難所が連続し、気が抜けない登山道が連続する。アカヤシオの花に癒されながら慎重に下り、宇都宮大学ワンダーフォーゲル部の嶺峰山荘まで来ると一息つける。山荘の先で小沢を渡ると猿田彦神社跡に出て、ここからは往路を戻り一の鳥居まで下って行く。一の鳥居で最後の休憩を取り、ここからは林道歩きになるのでSさんとFさんはトイレに向かって急ぎ足で下る。お山巡りコースは思った以上に厳しく、予定よりも時間が掛かってしまったが、スリルやアカヤシオの花を楽しみながら、充実した山行が楽しめ達成感を得られるコースだと思う。帰路は連休の渋滞を避け、粕尾峠を越えて大越路トンネル経由で栃木市に向かい時間を短縮することができた。

